

青森南高校

デジタル採点システムの活用

教務主任に
聞きました

県教育委員会では、校務に係る教職員の負担軽減の一環として、採点業務の効率化・省力化を図るため、県立高等学校及び県立中学校にデジタル採点システムを導入しています。

青森南高校に活用状況や導入までの経過などを伺いました。



一現在の活用場面を教えてください。

定期考査や実力テストがない教科の先生方を除いた全ての先生方が利用しています。年5回実施している定期考査や、実力テストの採点だけでなく、小テストの採点に利用する教科もあり、活用場面が広がっています。

一システムの活用方法を教えてください。

テスト全問を採点することはもちろんですが、先にシステムで語句や記号などを採点した後に、論述部分の採点はこれまでどおり手作業で採点するなど、適宜使い方を工夫しています。手作業部分の得点はシステム入力すれば、点数集計の際に反映されるのでとても便利です。

また、各設問の正答率が出るので教員がデータ分析の面で有効に活用しています。

一生徒の反応はいかがですか？

大変好評です。これまでは、各教科（各先生方）それぞれが各問題の正答率などを集計して、生徒にフィードバックしていましたが、システム利用により、全教科同じフォーマットで結果を示すことができるようになりました。

データが整理されているので、生徒からはテスト結果を振り返りやすくなったと聞いています。

一導入にあたりどのような準備をしましたか？

本校では、働き方改革のための取組として、校長から採点業務のデジタル化の提案があり、令和5年度中に検討を始めました。その際に、教務から採点業務のデジタル化の目的を説明するとともに、導入までのスケジュール等を示しました。その後、各教科から1名選んでもらい、システムのデモ操作をしてもらいました。

一運用を始めるにあたって大変だったことはなんですか？

今年度の運用開始前に、なぜシステム化が必要なのかを説明するための資料や、校内用の簡易なマニュアルを作成するのが大変でした。



準備は大変でしたが、運用後は活用する場面がスムーズに広がったと思います。

一これから活用を広げる学校にアドバイスはありますか？

先生方がどういうシステムか分からなかったり、操作方法に不安があると、活用が広がらない可能性があるため、不安を解消するための準備が大切だと思います。準備の段階で、多くの先生方を巻き込むことで操作できる人が増え、慣れていない人に教えられるような雰囲気を作れば、システムを使う人が多くなると思います。

システムの導入により、

- ・負担軽減につながる
 - ・複数の先生で採点でき、利便性が向上する
 - ・これまで採点業務に充てていた時間を生徒の指導や面談などに使えるようになる
- など効果を実感できると思います！

小問別成績

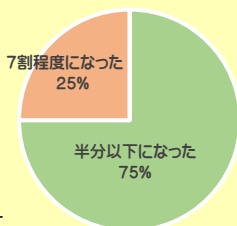
問題番号		全体正答率グラフ(%)		全体			
大問	小問	0	50	100	正答率	正誤	配点
1					44%	○	2
2					100%	○	3
3					67%	○	2

（個人向け分析データの例）

一採点業務にかかる時間はどのくらい短縮されましたか？

今年度、校内アンケートを実施したところ、採点に係る時間については、75%の教員が「半分以下になった」、25%が「7割程度になった」と回答し、採点にかかる時間が増えたと答えた教員はいませんでした。

これまでは、採点のために勤務時間を超えることも多くありましたが、システムを利用することにより、採点業務で学校に遅くまで残ることが減りました。



一先生方の反応はいかがですか？

とても好評です。導入当初は操作に慣れていないため、時間がかかるという意見もありましたが、今は手放せないシステムになっています。